

イス席千六百三十二、立ち席を加えると千八百人を収容できる大ホール。テレビ中継なども主としてこの会場から放映されます



柏公園のすぐ下、手賀沼よりに市が建設を進めていた市民文化会館が十月末の開館を目ざし、今急ピッチで最後の仕上げ工事にかかっています。この市民文化会館は敷地一万一千六百八十七平方メートル。建物は鉄筋コンクリート造り四階建て。総事業費は八億五千九百五十万円、工事は間組が施工しています。内部は千六百三十二の座席を持つ大ホールと三百席の小ホールが中心になっており、大ホールには直径十一メートルの回り舞台のある間口十八メートル奥行十三メートルの舞台オーケストラピット、事務室、楽屋などがあります。二階は投光室、ロビー、三階には食堂ラウンジ、四階は和室を含めて四つの会議室があります。小ホールでは一階に間口九メートル奥行四・五メートルの舞台のほか、会議室、楽屋、二階に展示室、ホール、投光室、三階には展示室、映写室などがあります。この会館は音楽や芸能の鑑賞、講演、会議、式典、展示などたくさん用途に利用できるように、照明、音響などに最新の機器を取り入れて設計されています。また周囲にはおよそ百台収容できる駐車場や池などがもうけられます。

市民文化会館

10月末にオープン



食堂、和室などから手賀沼の美しいけしきが望めます

300人収容の小ホール。講演会や音楽会などちょっとした集りに気軽に利用できます



きょうから使用受け付け

一般市民の皆さんの会館使用は11月7日からですが、この使用申し込みをきょうから会館で受け付けます。詳しくは、柏市民文化会館(64-9141)へお問い合わせください



会館の心臓部ともいえる機械操作室。ここでは暖冷房や電気などの操作がなされます

しっとり落ち着いた和室。華道茶道には最適です



公園口には歩道橋

ここを訪れる市民の皆さんの交通対策として、旧水戸街道と十六号国道が交差する柏公園入口付近には橋断歩道橋も取り付けられる予定です。さらに柏公園の桜並木沿いには車と人を分離するため、歩道の築造を進めています。また公園から、連絡通路のブリッジも取り付けられて、公園での散策を楽しまながら直接会館へ行くことができます。建物の配置には、柏公園から望む手賀沼の美しい景観をそこなないようにならされており、会館の建物が「手賀沼に浮かぶ船」のように全体が設計されたといわれており、完成のあかつきには人工と自然の調和のとれた、郷土の新しい「名所」になることでしょう。

軽妙な獅子舞い

市内藤籠田に古くから伝わる獅子舞は、地元西光院という寺で毎年お盆の終わる八月十六日、午後四時ごろから行なわれ、当日はたいていへんにぎわいます。現在舞われているものは「宮舞」といわれ、神に奉納するためのもの。獅子舞は、元禄時代五代将軍徳川綱吉のころから伝えられるといわれ、約二百六十年の歴史をもつ由緒あるものです。獅子舞



おはやしのリズムに合わせて軽妙な舞いは続く(昨年西光院で)

お隣りさん

空飛ぶ円盤、ロケット、地球の危機がせまる。六連発短銃の名手ジム少年が、白馬ライオンにさっそうとまがかる英姿。戦後一時代を風びした科学空想もの「地球SOS」や『大平原児』で、少年少女ファンを魅了した小松崎茂さんのお住いは、あけぼの四丁目にある。代々の語りかたなら子どものお小づかいの中ら「おもしろブック」や「少年倶楽部」を買い求めたり、貸本屋から借りて、この人の作品をむさぼり読んだ経験が、きつとおもむきでいってほしい。



日本が戦争に敗れ、とかく身も心もさみかちなころ、小松崎さんが描く作品は、多くの少年少女に未来への夢と希望を与えてくれたものだ。現在もイラストなどに忙しな毎日を送っておられるが、市民紹介コーナー「お隣りさん」の第一回目として登場いただいた。

柏にはどんな縁で
こへ引越したの昭和二十六年。父が茨城の真壁の人間としてね。おやじの郷里に近づくと、おやじの郷里に

緑の都市を
目ざしてほしいねえ
小松崎茂さん
あけぼの四丁目七十二

てきたのかなあ。アハハハ。(全身をゆすって爽快に笑いながら)

遊び場を残してほしい。地主さんの都合もあるでしょうけれど、狹路や阿佐ヶ谷、中野の失敗をしてほしくない。(このあと話題転じて光化学スモッグ、東京の公害問題、お得意の海上都市構想などを、ユーモアとペネンスをまじえて機関銃のように適切切れの

郷土の祭り二題



都市化の進む村、昔の面影もだんだん薄れていくなかで、郷土の芸能はなお力強く生き続けています。柏の民俗芸能の代表に藤籠田の三匹獅子舞いと大室の盆綱引きがあります。この二つの行事には農民のほろ苦い心があふれ、見る人はしばしば昔への郷愁に誘われることでしょう。今回は祭り二題を紹介いたします。

豪快な盆綱引き

太さが六十センチメートルもある綱を大げいの若者が「ワッショイ・ワッショイ」と豪快に引きあ

十五日の夜に行なわれ、こどもも大室青年館前で引きあいます。盆綱のいわれは古く神代の昔からのもので、はつきりとはわかっていません。

現在の仕事は
一時はマンガなど出版物が多かったけど、今はプラモデルとか文房具が多いねえ。仕事は主に夜だねえ。ほんとうは良くないのでそろそろ自然の型にもどさなっちゃ。

柏駅東口市街地再開発事業は、住民の権利を侵害し、違法・違法であるという理由から、市との話し合いをこぼみ続けこのままでは、工事の完成の見通しが立たない状態でした。

反対者と円満解決
柏駅前再開発事業



威勢のよいかけ声で若者が綱を引きあう

旬間交通事故			
47年7月16日~31日			
市	内	死者	2
32件		負傷	41
	累	計者	12
483件		死傷	661

カッとする心の動きが事故のもと

失補償などがまると、今月十日までに権利者全員の立ちのきが完了しました。このため、五月十五日着工以来遅れていた建築物の工事も、いよいよ本格的にとりかかるとなりました。

鬼怒が中利根川に注ぐようになったのは寛永二年とも六年とも言われ、そのいずれかを断定できる史料は今日まで見つかっていませんが、大室村に残る史料には、寛永六年に花野井村と対岸の戸頭村が花野井村下の秣場をめぐって争ったことが記されています。このことからすれば、瀬をせき止めて洲ができた場所になることは間違いなく、鬼怒の瀬は、百年の説が正しいと思われま。

数多くの出入りのうち、承応元年(一六五二)の船戸・小野田・大室・花野井の四力村と対岸の高野村との出入りでは、高野村の農民が大船小船二十艘に三、四百人が乗って市城村へあがり、おりから草を刈っていた大室村などの農民に暴力をふるったとあります。そのとき高野村岸には藩力の浪人のようなものがこれを指揮していたといえますから、やがて映画「そのもの光景であったこと」でしょう。この出入りは大室村の四力村が奉行所へ訴えて、相当な日数と金銭を費したす勝訴も。

四力村では、祝儀として領主に鮭や鯉を献上し、これは明治に至るまで続けられました。(市編さん係)

赤の糸を
利根川流作場

赤の糸を
赤の糸を



広い遊び場で元気に遊ぶ富士見町の子ども
遊び場をありがとう

夏休みは、子どもたちにとって心身をきたえる絶好のチャンス。この子どもたちが元気で安全に遊ぶべからうと、自分の土地三平方メートルを提供している人がいます。

富士見町で酒造を営む鈴木ちかさん(78歳)豊四季(六)がその人。この夏休みは盆踊りや野球大会など、みんなで楽しめる広場として利用されています。

また、市に子ども遊び場を提案し、子どもたちに喜ばれているかたは次のとおりです。

保田(高田) 谷川(末) 広町(染谷) 遊井(根本) 一夫(豊四季) 東陽寺(根岸) 妙蓮寺(増尾) 白山神社(豊佳) 善師堂(酒井)

赤の糸を
赤の糸を

赤の糸を
赤の糸を

赤の糸を
赤の糸を

赤の糸を
赤の糸を

赤の糸を
赤の糸を

